

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさつぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvoNoCd=0170502710-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoNoCd=0170502710-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多忙な勤務内容の日があっても、管理者や法人代表者はベテランスタッフが多数いる中で、利用者との関わり時間を優先し、利用者一人ひとりの思いを最大限汲み取ろうとしたり認知症状態に合わせ、気持ちを込めた声掛けやケアを行うように力を入れて指導し、各職員日々見直しながら実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年6月に開設した「グループホームみんなの家」は、周辺に大・小の公園や高校があり、バス停にも3分程の立地です。隣接公園で開催した夏祭りは地域の恒例イベントとして歓迎されてきましたが、コロナ禍で規模縮小の実施となり、住民からは以前のような開催を待望されています。現在、外出や交流に制約はありますが、日々心地よく楽しい暮らしであるよう、良好なチーム力を発揮し、認知症ケアの視点と人格尊重に基づく支援姿勢で、一人ひとりの利用者へ寄り添っています。年間行事に節句や餅つき、居酒屋行事などを盛り込み、食の充実や馴染みある慣習を支えています。ひな祭りにはちらし寿司、端午の節句は柏餅やべこ餅、正月は運営者手作りのお節で新年を迎えています。情報発信も優れており、運営推進会議の場で運営やサービス状況を詳しく報告し、家族には隔月の通信で本人や事業所の活動内容を報せています。密な医療連携の下、多くの終末期も日常の事として心を込めて支援しています。余裕ある住環境の中で、趣向を凝らしたレクリエーションや趣味活動、家事仕事、利用者の生活の楽しみと活力につながり、利用者、職員ともに笑顔のある事業所となっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く所に掲示し、ユニット会議での振り返りや日々のお互いの声掛けにより実施している。	開設時に策定された理念は、業務や会議、入職時研修等で全職員が共有しています。理念の1項にある「笑顔が広がる家庭の輪」は支援姿勢の根幹を為し、職員は家族としての支援になっているか振り返り、日々の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域住民からの入居相談や入居待機者が多数いる。コロナ禍の為、近隣小学校や園児との交流を図る事が出来ずにいる。	現在はミニ夏祭りを行っていますが、コロナ禍以前は地域のイベントとして住民参加の「夏祭り」が開催されていました。交流は自粛中ですが、散歩では、住民や子供達と挨拶を交わっています。介護や入居の相談には快く応じ、地域の情報は町内会長から受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も事業所主催の夏祭りをコロナ禍の為実施できなかった。入居や見学など地域住民からの問い合わせは多く、訪問された際には認知症の方への具体的な対応方法等助言させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においても、地域包括、町内会長、民生委員、入居者及び御家族の参加による会議を2ヶ月に1回書面及び話し合いの場を設け意見交換をしている。	運営推進会議は、2ヵ月ごとに参集や書面で実施しています。内容は、利用者や活動の状況、事故等や医療関係、終末期支援、職員配置状況などを報告し、透明性の高い会議運営になっています。推進委員からは労いの言葉などを得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況や事故の報告、手続きなどの必要な情報交換を行うことが出来ている。また、生活保護課とも密に連絡をとっている。	行政とは随時連絡を取り合い、諸種報告事項は、直接持参や電話、メール等で行っています。最新の情報共有や連携は密に行い、利用者の健康や安全、安心生活の継続に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者が主体となり、家族の一人としての支援に努めており、職員会議時に積極的な意見交換にて日中の無施錠など具体的な取り組みを行っている。	今年10月に身体拘束及び虐待防止委員会と改め、運営推進会議で拘束や虐待のないことを報告しています。指針を整備し、求められる内容の理解と適切なケアの実践は、委員会や勉強会で確認しています。家族同意でのセンサーマットの使用は介護計画で見直し、生活上のリスクも都度対応策を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時に資料を用いて話し合い、言葉使いや対応等注意し合うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のマニュアル、研修書類などをいつでも確認出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず内容を読み、細かく説明している。十分に御理解して頂いた上でサインを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全利用者家族へ2ヶ月に1回ホーム便りを発行し、運営状況の報告をしている。また、事前に了承を得ている家族とはメールやLINEの有効活用により意見交換等を行っている。	家族には、写真を多用した通信を隔月で送付しています。オンラインも活用し、面会時や頻回の電話連絡などで、対話を重視して関わっています。家族とは、口頭で何でも言ってもらえる関係を築き、苦言等も速やかに協議し改善や対策を講じています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見を言えるグループLINEの活用やいつでも相談が出来る様な雰囲気を作っている。	運営者は毎月の各階会議に必ず出席し、事業所の全体動向を把握しています。職員の積極的な発言を受けとめ、また、個別にはアンケート後に面談の機会を設けています。業務上の提案をはじめ、不測の欠勤や遅刻も柔軟に対応し、職員間も良好な協力関係にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニット会議に参加し、現場の様子や状況把握に努め、職員からの相談、意見、要望を聞き、対応や検討に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、様々なテーマで話し合い、意見交換も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍において、交流する機会はないが、書類やメールにて情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人との面談、ホーム内見学、説明機会を必ず設け、安心して入居出来る様に調整しています。少しずつ慣れた上で入居に向けて話し合い不安軽減を図っています。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族との面談を行い、希望や不安事など確認しています。その後も要望や疑問が出てきた際にその都度話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、面談時に不安事や希望を確認し、必要なケアを検討したり、他のサービスを含め、かかりつけ医師や家族を話し合い対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に洗濯物をたたんだり、食材を下準備したり、屋外までごみ捨てに行ったり、様々な事を共に行うことを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡がきた際には必ず近況報告を行い、特変時にも電話やLINEでの相談報告にて共に検討しケアにあたるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ予防で家族との連絡のもとで、電話でいつでも出来る様になっている。家族と馴染みの場所に外出されている方はいます。	自由な交流は制限していますが、家族や親族、友人との面会や電話、手紙などを取り次ぎし、馴染みの関わりが維持できるよう利用者の昔話を聞いています。訪問の理美容師や往診医師とは親しく会話ができる関係です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や生活歴に充分配慮し、テーブル席や空間作りを都度見直ししながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談、問い合わせがあれば対応できるようにその旨説明をしている。家族とも近況報告など電話やLINE活用にて引き続きの関係作りを行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意見や希望を言えない方が多いですが、パーソンド・センター方式を活用しながら表情や行動、性格等に合わせ希望に添える様に支援している。	言葉のほか、表情や仕草、過去のアセスメント情報や家族の意見等も加え、本人本位に意向を検討しています。買い物や食べたいものの希望はできる限り応じ、できない場合は代替策を提案しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	パーソンド・センター方式活用のもと、本人及び家族から情報を集め、アセスメントし生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた離床時間や居室で自由に過ごされるなどこれまでの生活歴を把握した関わりをしえいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	丁寧な聞き取りによるアセスメントや日常の支援について先に職員からモニタリングを行い、家族や関係機関からの意見を反映し、ユニット会議や朝、夕の申し送り時などで協議し介護計画を作成している。	介護計画は定期的もしくは状態変化において見直し、本人、家族、医療関係者、職員の意見を反映しています。日々の記録で現状や計画の実践を確認し、複数職員が係わるモニタリング、アセスメントやカンファレンスを通して現状に沿い、本人主体の計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画により実践、結果、気づきを細かく記録し、常に確認出来る様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人、家族の希望に沿える様に事業所全体で相談、報告しながら取り組む様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や敬老会など行事には地域の方々の協力をして頂いていたが、今年度もコロナ禍で予防対策にて事業所内全体で楽しんで頂ける様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居までのかかりつけ医への受診継続や協力医療機関からの定期的な往診、看護師の訪問など本人・家族が安心できる受診体制を整えている。	かかりつけ医は、利用者、家族の意向で決めています。協力医による月2回の内科の往診、眼科や皮膚科、歯科も訪問診療を利用できます。その他の受診は職員が同行し、家族の同意と報告は受診前後に行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護があり、利用者の心身状態を見て頂き、相談や意見を頂いている。特変時にも訪問看護師から往診医に都度連絡をとられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は細目に病院関係者との情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず重度化した場合や終末期の対応説明と同意を行っている。状態変化時には再度説明と医療機関と連携し、看取り支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所の支援のあり方を説明し、同意を得ています。本人と家族の意向の聞き取りに努め、共に終末期を支えるために、主治医を交え話し合いの場を設けています。医療と密に連携し、職員総意の下で最大限の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故等のマニュアルは準備し常に見られるようにしていますが、定期的な研修や訓練はコロナ禍もありされていない。状況を見て取り組んでいきたいと思っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災、防火、水害、夜間想定などの訓練を実施している。コロナ禍においてパンデミック発生を含めたBCP策定も行っている。地域とは緊急通報システムの設置や緊急連絡網の整備も行っている。	今年度は10月に系列事業所と合同で、夜間の火災、水害発生を想定した避難訓練を実施しています。非常用として各種の備蓄品やストーブを準備し、地域協力体制の構築、BCP(業務継続計画)策定も進めています。	様々な災害が発生する昨今であり、全職員が非常時に迅速に対応できるよう、地震発生や日常の各場面を想定した実践、または机上での訓練の実施を期待します。避難場所についても、年1回程のスパンで家族に周知することを期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や生活歴も考慮し、本人を尊重した声掛けや関わりに気をつけて対応している。	人格尊重は支援の基本と心得ており、慣れ合いに留意し、気になる接遇は職員間で注意し合っています。特に、排泄面では言葉を変えてトイレに誘導し、入浴での同性介助の要望はシフトを調整し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のその日着たい服装や飲みたい物、食べたい物、見たいテレビ内容など希望を聞きながら、自己決定できる声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりその日の状況やその日の状態を見ながら散歩や入浴、昼寝等の生活ペースに合わせながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問理美容にて本人が希望される髪型等取り入れている。朝もその日着たい洋服など選ばれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事を楽しく食べられる様に食べたい物を聞いたり、調理したりと作業を状態に合わせて取り組んでいる。	職員作成のメニューに、利用者の嗜好や食べたいものが反映されています。食事作りは利用者も手伝い、育てた野菜を彩り、誕生日や行事は楽しみのメニューになっています。食事時間は2時間程の余裕を見て、個々の習慣やゆっくりとした食事ペースに応じた支援を心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分量を記録し、必要量摂取出来る様に調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシの他、舌ブラシ、スポンジ、洗口液等を使用し衛生に努めています。また、歯科医院とも連携し、すぐに往診出来る様に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録用紙を活用し、一人ひとりの排泄パターンを確認した上で声掛け、誘導を行っている。身体機能に合わせた様々なおむつの選択やおむつ使用を減らせる様に支援している。	自立支援を基本に、尿意感覚を踏まえ重度の人も日中はトイレで排泄できるよう複数で介助しています。排泄に関する一連の支援は不快感や羞恥心に十分配慮し、衛生用品の使用も細かに検討し、適切なものを選択しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけでなく、乳製品や栄養バランスを考えた食事、運動も取り入れている。一人ひとりの排泄表を用いて、個々によって処置内容や使用日時を決め調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	利用者の状況や希望に出来る限り合わせ、個別に入浴している。また、汚染状況によっても都度入浴、シャワー浴、清拭など対応している。	毎日入浴を準備し、個々に週2～3回の入浴になっています。湯温や洗身の仕方は個別に応じていますが、できる事はしてもらい自立を支援しています。入浴時は、ゆっくりと利用者の話を聞ける大切な時間と捉えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間もそれぞれのタイミングで入床時間が違い、安眠出来る様におむつ交換の時間も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は一人ひとり分かれているケースを使用し、薬セット時は2人以上の職員で間違いがないか確認、服薬時も名前を必ず読み上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や関わりの中で、好きな事やしたい事、食べたい物を聞いて希望を取り入れる様に検討し、対応に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で多くは実施できていないが、個別的希望についても家族と相談しながら出掛けられる様に努めている。屋内で落ち着きがなく天候が良い時には少しでも屋外に出て気分転換出来る様にしている。	近隣の公園に車椅子を押しながら、桜や紅葉を見物しています。一部家族との外出もありますが、コロナ禍により制限中です。ごみ捨てや洗濯物干しなど、日常の些細な場面でも外気に触れ、気分転換につなげています。ベランダで花や野菜を育てることは、利用者の楽しみと生活の潤いになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方はご自分で財布を持たれている。立て替えでの対応で希望時に買い物ができる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用が出来、その際職員から状況報告も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り利用者の心地よいスペース作りや日当たりよく、風通しよく家具を配置している。共有空間は車椅子を自操しやすい様に広くなっており、季節に応じた装飾もほぼ手作りです。壁に貼っています。匂いや清潔面でも消臭剤などを活用している。	共用空間は明るく、広さもあり、利用者に合わせて車椅子自操ができるレイアウトにしています。温・湿度や換気等を適切に管理し、清掃は利用者も拭き掃除を行い、一緒に清潔保持を図っています。季節感のある装飾、心和む動物や風景の写真、日めくり等も掲示し、家庭的な過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル以外にも気軽にくつろげるソファを配置したり、一人ひとりの性格を考慮し、気の合った利用者同士でのTV鑑賞空間を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やTV、仏壇など本人が入居前から使用されていた物を配置している。また、本人が安心出来る様な写真や創作物など壁に貼ったりしている。	各居室に表札が掛けられ、クローゼットや介護用ベッドが備えてあります。大切にしている仏壇やアルバム、人形等が置かれています。趣味の編み物道具や日舞の扇子なども持参され、好きな事やライフワークが継続できるよう、その人らしい居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内にはいたる所に手すりを設置し、車椅子の方でも自由に移動出来る様に広い空間作りも行っている。トイレ、台所、居室、浴室等場所がわかりやすい様に張り紙をしている。		